

【資料2】

総合科学技術・イノベーション会議
教育・人材育成ワーキング・グループ(第4回)
2021/11/25

【文部科学省】

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議 アンケート結果まとめ

1. アンケートの概要

【目的】

特定分野に特異な才能のある児童生徒の情報等を得て、その指導・支援の在り方等に関する具体的な検討に資する。

【対象】

特定分野に特異な才能のある児童生徒及びその関係者（保護者、学校の教師、支援団体の職員等）

【実施方法】

アンケートフォームへのリンクを文部科学省の「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」ウェブページに掲載し、回答を受付

【実施スケジュール】

8月26日（木） 回答受付開始

9月17日（金） 回答締切

【定義】

本アンケート調査における「特異な才能のある児童生徒」とは、同年齢の児童生徒の中で、知能や創造性、芸術、運動、特定の学問の能力（教科ごとの学力等）等において一定以上の能力を示す者をいいます。また、特異な才能と学習困難とを併せ有する児童生徒（いわゆる2Eの児童生徒）等も含みます。なお、小学校段階から高等学校段階までの者を対象とします。

2. アンケートの結果

(1) 回答者の内訳

	本人	保護者	学校の 教師	支援団体 の職員	その他	合計
件数	54	663	30	18	43	808

※その他には、「スクールカウンセラー」「学習支援員」「教育委員会」「臨床心理士」などからの回答があった。

(2) 寄せられた事例の数

学校段階	小学校段階	中学校段階	高等学校段階	合計
事例数	703	163	114	980

※1回答者が複数の事例を回答できるため、回答者件数と事例数は一致しない。

(3) 具体的な事例の内容

※事例は多様であり、以下の内容は、代表的なものを便宜的に分類して、原文のまま列記したもの。（なお、学校段階について特に言及がないものは、小学校段階として回答されたもの。）

①特異な才能

(言語)

- ・ひらがな、カタカナの読みは3歳で完全に理解しており、漢字のフリガナも読んだのでそこから漢字もどんどん覚えた。語彙も年齢相応以上に豊富。100ページほどの本なら1, 2時間で読む。図鑑などの内容もはっきり覚えている。
- ・言語能力が高い。0歳10ヶ月程度で日本語及び英語でかなりしっかりコミュニケーションがとれ、1歳になるころには絵本や住所など様々なものを暗唱するなどしており、語彙も豊富だった。第二外国語を学んでも、早い段階で帰国子女レベルに覚えてしまう。
- ・3、4歳から論理を展開する会話を好み、5、6歳になると大人の発言の矛盾を指摘し、嫌悪感を示すなどがありました。小学生低学年の頃、数人の発言から、誰が嘘を言っているかを当てるクイズをやると、問題を聞き終わるや否や正解するので、論理に非常に強いと認識しました。
- ・中学に入り語学力があることがわかる。国語の模試は勉強せず常に偏差値70代。外国籍の友人から教えてもらうだけでハングルを読み書きする。中国語を聞き取る。スペイン語、フランス語を自学する。いわゆる純ジャパで英語は中学校から初めて高一で英検2級取得。英単語は一度聞けば覚えられるといい、国語、英語は勉強しないのに成績は常にトップクラス。

(数理)

- ・言葉を発する頃から数字に興味を示す。現在小2、小学校範囲の数学は終了し中学数学も終了する勢いです。整数問題が特に好きで、場合によっては大学レベルの数学にも理解を示す。
- ・2歳から数字への理解が早く、小3から中学数学、小5で数ⅡBへ。数検準2級。
- ・3歳には本から九九などの計算を理解。小3の今は、独学で高校や大学レベルの数学を学ぶ。高校や大学初学レベルの統計検定3級合格。プログラミングや科学的知識も中高レベル。
- ・四則演算（特に掛け算と割り算）が得意。また、素因数分解が得意で4桁以下なら5秒以内に分解できる。小学校四年生で素数と素因数分解を習いハマリ、中学校二年生までに人力で出来る全ての素因数分解アルゴリズムを自力で発見する。今でも1日1時間は素因数分解している。

(科学)

- ・4歳の頃から図鑑や自然科学系の本を読むことに没頭。5歳の頃から自ら仮説を立てて研究を開始、6歳で全国規模の自然科学コンクールで入賞。7歳で大学の研究施設で研究をさせてもらい新発見のデータを出したため今後、地域の学会や博物館の子供学会で発表予定(推薦枠取得済み)。
- ・幼児の頃、中学生～高校生向けの理科事典を熟読し、物理などの興味のある実験を行っていた。実験道具は、家庭用品を使って自作していた。小学校入学後は、科学館等での体験や日常生活の中から研究テーマを発見し、実験や観察等を実施して毎年何らかの形で研究発表している。
- ・生物に関する興味が強く、生物基礎レベルの知識を有している。1歳半くらいから動物に興味を持ち、図鑑などはすぐに暗記してしまう。

- ・5歳から人体が好きで、人体の構造や、免疫機能、最近では薬の図鑑を熟読している。
- ・生まれつき、科学に突出している。4歳で進化論を理解していた。8歳で量子力学や相対性理論を理解していた。
- ・幼稚園で周期表をすべて覚え、ブラックホールに関心を持つ。小学生に入り分子や電子、核融合に興味を持ち、1年生の時から科学雑誌を愛読。

(芸術)

- ・6歳の現時点で12の絵画賞を受賞。個展や作品展示はメディアにも取り上げられ、企業からの絵画制作依頼なども入っている。2歳頃から、グラデーション(色相環)を理解し、ブロックのカラーをグラデーションで並べて遊んでいた。
- ・造形が得意。粘土や、折り紙、ペットボトルの端材など、様々な素材を利用し、ミニチュアなどを作るのが得意。特に白色粘土にアクリル絵の具を混ぜて、微妙な色あいを自分で作り出し、製作する。1歳半からハサミを持ち、段ボールで「歯ブラシ」のシルエットなどを切り始めた。1歳半でハサミを使うのは早いと思ったのと、言葉がないのに、形で表現し、その作品で歯を磨くジェスチャーをし、表現してきたので、造形が得意だということに気が付いた。
- ・立体を捉える能力が高いのか、3歳3ヶ月頃に立方体(棚)を描いた。就園後は周りに合わせているかのように人物しか描かなくなりましたが、年長時パースのある絵を描いている。また、粘土で人の形を捉えて表現することが上手く、3歳で頭・胴・手足が分かれた人形(ねずみ)を作った。粘土に関しては上達しており、現在ポーズをつけ服を着た人形を作る事が多い。

(音楽)

- ・一才から音楽を聴かせると裏拍で手拍子をしていた。耳がよく一度聞いた歌は再現できる。
- ・3歳では数十曲の歌詞とメロディを覚えて歌う。5歳では音を聴いて演奏を合わせることが出来る。リズムや和声を理論なしに理解し即興でバンドの中に入って演奏できる。小学生では初見で(見ただけ練習なしで)上級レベルの曲をバイオリンで弾き講師からあり得ないと言われる。
- ・楽器も得意で、エレクトーンが元々できたが、ドラムやベース、ギターも興味がある時は教えるとすぐできるようになる。今はPCでの曲作りを進めていてDAWを使い頭に浮かんだ音を入力。メロディから、ドラムパターン、ベースライン、ギターリフまで1人で作っている。
- ・6歳で初めてピアノをひいた時に両手でひけた。ピアノで色々な和音を出して「コード」を自分で見つけていて、後にコード表があるのを知って驚いていた。聞いた音楽を耳コピできる。

(運動)

- ・小学生のときから、ダンスの振り付けを覚えるのが早かった。やり方を聞くと、一度見たダンスを頭の中で動画再生して、練習するとの事。手先足先など、小学生のダンスクラブ程度の振り付けなら1度で目でコピーしていた。
- ・身体能力が非常に高く、どんなスポーツにおいても高い能力を発揮する。そのスポーツをやっているお子さんが通常何年もかけて習得することを数十分の練習で習得する。

(特定の事柄への強い関心)

- ・ 知的なことをよく好み、興味の対象はどんどん掘り下げて辺縁情報まで広く知ろうとするところがあります。知ることが彼の喜びであり、そうしている間の集中力は非常に高く、年齢以上に博識です。
- ・ 小1からパソコンを使い始め、scratchでアニメーションやゲームを作る。エンジンのしくみアニメ、熱機関のアニメ、人工知能のしくみ動画、など。いまは父親と一緒にオセロのプログラムを作っている。
- ・ 現在は機械に興味があり、電子部品を組み上げ抵抗を計算しセンサーロボットを作ったり、家電を改造する。
- ・ 5歳で将棋に興味を持ち、数回でルールを覚えてさせるようになった。1か月後からは詰将棋の問題を作るようになった。
- ・ 図鑑に強い興味を持ち、地球や宇宙、鉱物や人体などの図鑑を読んで細部に至るまで内容を覚えてしまいました。4歳の頃、腹痛で救急病院に運ばれた際、「位置的に小腸や大腸じゃないと思う。多分膀胱に細菌が入ったんだと思う」と言っており、実際診断は彼の見立て通り膀胱炎でした。また同じ頃母親が虫垂炎でCTを撮った際、臓器の画像を指差して名前を次々言い当て医師を唖然とさせたこともあります。
- ・ 車への興味をとて強く持った子でした。1歳半くらいから車種を覚え始め、文字を覚えたのも本人は車を表すものとして、3歳の頃にはひらがな、カタカナ、アルファベットも特に教えずとも理解していました。成長と共に乗り物ブームが終わっていくよその子を尻目に、我が子の車好きは加速していき、4~5歳で、愛読書は車の専門誌、エンジンなどの構造にも興味は広がり、ディーラーの営業さん以上に知識がありました。保育園では玩具で、他の子が平面物を作る中、一人だけ立体の車を作った。自由なお絵かきでは展開図を書き、切り取り、車の形に組み立てて、先生に驚かれました。(逆にお絵描きなどでは車以外のものはほとんど書きませんでした。)
- ・ 本格的に我が子の特異な才能に気づいたのは、小学校1年生の頃です。『時間』に興味があるようだったの「では、時について何を知りたいの?」と聞いてみました。そうしたら、哲学的な視点・時間軸について・時の成立(歴史、地理、化学、科学分野)・時の感じ方(人間、動物との違い)など一気に多分野の38項目もの質問を受けました。一つ一つがあまりに深く、どこから答えていいのか、どのように一緒に取り組んでいけばいいのか、とても考えさせられました。
- ・ 3.4歳から哲学的なことを考えており、自分なりの言葉で伝えてきた。笑顔は何のためにあるのか。個性とは何かなど。
- ・ 政治・安全保障に関する強い関心及び専門性がある。小学校時から明治時代以降の近現代史・政治に強い関心を示し、書籍・新聞等での学習・情報収集を行っていた。中学校時から外交問題や安全保障に強い関心を示しはじめ講演会への参加、BBCなど海外メディアからの情報収集を行ないはじめた。現在は国内外の専門家との意見交換・政治家へのインタビュー、外交問題等の論評・分析を行なっている。
- ・ 現在、6歳ですが、国際社会に強い興味を持っています。アフガン紛争から始まり、カンボジア内乱、中国文化革命等を東西冷戦後の世界で、国連の意義について、毎日考えています。(お風呂の中で)
- ・ 5歳で地球温暖化を理解して、海面上昇に怯える。6歳でニュースを機会に世界情勢に興味を持つ。イスラエルとパレスチナの対立はなぜかと思い、歴史を学んでいる。

（創造性）

- ・ 4.5歳ごろから、違いによく気づくことや生活の中で深い疑問を多く持ち質問してくる。感受性が豊かで、ものを見る視点がユニークなところがあり、想像力や予測する力に長けている。クリエイティブなことを好む
- ・ 幼少期から言語習得が早い傾向があり、大人との会話を好んでいました。興味をもったことを主体的に深く追求でき、それによって身につけた発想力と、アイデアを具現化する技能について評価されることが多くありました。
- ・ 法則にあてはめる事が好き。学校で習ったやり方とは別に、自分のやり方で問題を解いたりする。小2にしては、物事を深く考える。
- ・ 2才から歌を作り。3才から長い話しを作り。4才から絵本を作った。小1からプログラミングにはまりたくさんの作品を作る。小5の現在は、アプリを作成中。
- ・ 二年生時に「二酸化炭素を発生しない発電方法を思いついたよ」とか、昆虫についての図鑑からの知識を話してくれているうちに、ふと親が「それも図鑑にのっていたの？」と聞くと「ううん、途中からは僕の考えだよ」というような事が度々あった。
- ・ 立体パズルブロックなど、見本や説明無しに複雑なものを作り上げる。料理を、自分で考えた独創的なレシピで作る。

（集中力）

- ・ 興味のあることにはとても集中力があり、ひとつのことに何時間も没頭することがある。
- ・ 空き箱工作、プラモデルなど作ることが大好きで、1度始めると午前中から夕方まで昼食もとらずに完成するまで没頭する。

（記憶力）

- ・ 興味のある視覚情報が強く入る。日本地図の町名。同じ町名も何県と何県にあると言える。高速道路の何号線がどこからどこまでかが言える。観光地の展望台から見える道路が何線（高速でも電車でも）言える。街中の駐車場の営業時間、料金をすべて記憶している。いつからいつまでと時間を言うと、最安値の駐車場を紹介できる。街中のトイレの設置台数（和洋いくつ）、手洗い場の数を記憶している。
- ・ 小学校低学年の頃記憶力に優れていて、アニメの映画を一本全部セリフや効果音を覚えていて再生できた。歴史の本も一冊暗記し、ページ数を言うとそこに記載してある合戦名や大将の名前兵の数、どんな戦いだったか説明できた。
- ・ 4歳で九九暗記。6歳で周期表を暗記、円周率を110桁暗唱、 $\sqrt{2}$ (1.41421356...)50桁暗唱。

（その他）

- ・ 洞察力があり、矛盾に気づき、筋が通らないこと、「理」がないこと、予定調和なことへの抵抗感がとても強かった。全体の幸福度があがることをつねに意識している。

②学校で経験した困難

【本人の回答】

- ・教科書の内容はすべて理解していたが、自分のレベルに合わせた勉強をすることはまったく許されなかった。周囲に合わせると叱られ、授業中は常に暇を持て余していた。
- ・中学の現国の教科書内容はタイトルと最初の一文を読めば、文章全体の内容と、設問が予測でき、実際にその通りだった。同じく数学の授業でも、問題文をみた段階で方程式が思い浮かび、即座に答えを導き出せた。そのまま応用問題も自分で解いた。それでもまだ、授業は方程式の解説にも至っておらず、残りの40分以上何をしたらよいかわからなかった。
- ・授業が常に苦痛でした。発言をすると授業の雰囲気壊してしまい、申し訳なく感じてしまうので、わからないふりをしなければなりません。しかし、わからないふりをするのもまた苦痛で、結局授業に中に自分を見出すことはできませんでした。
- ・学習では、学校で習っていない解法をテストなどで回答すると×にされる事が嫌だった。意味があるのかは分からないが、解き方があっていなら正解にするべきだと思う。(2+2+2+2を2×4にすると不正解にされるという事です。)
- ・いわゆる2E状態で、鉛筆を持って字を書く速度の遅さと、脳内での処理速度の速さが釣り合わず、プリントでの学習にストレスを感じていた。
- ・同級生との話がかみ合わず、大人と話している方が良い。あまり周りに理解をしてもらえない。友達に変わっている子扱いされる。学校に行く時間を自分の好きなことの時間にしたい。
- ・周りに合わせる必要があると感じてしまい、難しい単語や話題を友人に話すことができなくなってしまった。その結果、知識を頭に入れることさえも恐怖に感じてしまうようになり、高校受験で失敗した。高校からは入学前に全て学んでしまったので新しい刺激が全くなく、学習の意欲が明らかに低下していった。
- ・兎に角話が合わない事。学校の友達と話するとき(特に低学年)、言葉を簡単にしなければ、話が通じ合わないので常に日本語を英語に翻訳しながら喋っているような気分だった。
- ・精神的な発達が生活年齢よりも部分的に進んでいるため、同年齢のクラスメイトとの価値観や感じ方の共有ができない。共感が得られず孤独。学級内の発表などで、自分らしく自分の思ったままの発言をしたり、作文を発表したりすると、教師や同級生から驚かれてしまい、こちらも困惑する。作文や発言をすることが嫌になってしまう。周りと同化するために知らないふりをしたり、特異な能力を伸ばして良いのか、無くした方が良いのか分からず混乱する。自分が特別な子供のような気がしてしまって勘違いしやすくなってしまう。勉強しなくても良い成績とれてしまうので、努力のきっかけを逸しやすい。
- ・何をやっても手本にされたり代表に選ばれたりして燃え尽き症候群になったので、教師たちには全てを自分に期待しないで欲しかった。それと同時に、疲れて不登校になったときに見放さないで欲しかった。

【保護者等の回答】

（学習に関すること）

- ・授業がつまらなく登校しぶりがあった。
- ・授業の内容がすぐに理解できてしまいその先への興味が先行するが、満足できる知識は提供されず退屈してしまう。できない人へ教えるなどの機会は得られるが、知的好奇心は満たされず、集団での行動がつまらない、自分ではできない、と自己肯定感が下がる経験を日常的にしいられる。
- ・すでに知っている知識以上の勉強がしたいのに、指導要領以上は認められなかった。
- ・学校も基本教室から出なければ何をしてもいいと言ってくれていたが、3年生になり、授業の面白さが無いままであることに我慢の限界がくる。学校脱走を重ねたのと本人の希望で不登校になり、ホームスクーリングに。
- ・暗算できるのに式や筆算を書かされたり、理解していることでも板書や書き取りでやたらと量を書かせるのが苦痛でならない。
- ・既に知っている内容でノートなども書く必要がないため、書かない。そのためノート提出が出来ず内申点がとても低い。興味のある科目ほど意欲がないと判断されてしまう。
- ・文章を書くのを嫌がるので書字障害かと思ったが、頭の中で書く文章の進みが早すぎて、書字が追い付かないから書くのが大変で嫌とのこと。
- ・反復学習が大変苦手。漢字の練習（同じ字を何度も練習すること）や同じパターンの計算問題が大量にある算数プリントが苦手。苦手と言う範疇を超え、ひどく嫌がり、叫び、ストレスから吃音の心身症状も出る。
- ・興味のムラが多く、教科書に沿った授業では退屈していたと思えば置いていかれたり成績が安定せず、学びかたの非効率さを感じる場面が多くありました。家では自分の興味を追求するため宿題をしないことも多く、先生を困らせていました。
- ・完璧主義であり、授業で絵を描くときは自分の理想とする完璧な絵と、実際に自分が書く絵に解離があり、初めから描こうとしない。
- ・自学自習などやレポート的な課題を、とことんまで追求するので、宿題なども休みの日も朝から晩まで神経症になりながら、相当学校がしんどかった。

（対人関係に関すること）

- ・趣味の合う、同じ熱量と知識の子が身近におらず、学校生活を楽しめない。
- ・ギフト故の複雑な思考、向学心、繊細さ等が大人や同年齢の子供たちに理解されず、孤独感を募らせた。
- ・言語能力に反してコミュニケーションが不得意なので言いたいことを言えずに我慢していたり、どうしていいかわからないということがある様子。
- ・コミュニケーション能力が低く、他の人と仲良くすることが楽しいと思えず、自分ひとりで図鑑などを見るのが好きなので、休み時間などは一人ですごし、特に問題にはなっていなかったが逆に、そのことで、手のかからない生徒となりほとんど支援を受けていない様子。最近「実は自分からは、しゃべらないようにしている」と本人が言ってきており、集団生活で学ぶべきことがまったく学ばずに、学校生活が終わるのではないかと不安になる。
- ・一対一ではほとんど見られないが、小集団の中での言動が挑発的であったり、乱暴であると指摘を受けた。自分軸でしか認識していないところがあり、状況判断ができていないため、対人トラブルが起きやすい。
- ・早熟な知能に対して情緒の発達が遅く（非同期発達と言うそうです）感情のコントロールが未熟なので、些細な事で怒れてしまったり泣けてしまったり、他の児童と言い合いになったりしてしまいます。
- ・学校の中では、みんなと違う部分が強調され、“いじめ”の対象となりやすい。
- ・授業中に過集中or白昼夢に突入し、先生の指示を覚えていない時がある。その様子を同級生にきつく注意されトラブルになりがち。
- ・優しすぎて、滑り台の列に横入りしてくる子供を待ち続けて、まったく自分の番が来ないことがありました。また優劣がつくことや、勝負ごとが嫌いで、ジャンケンすら友達とやりたがらなかったことがありました。小学校は勉強が始まってテストがあったり、できるできないが明確に現れるので、学校にはほとんど行けていません。

（ルールへの適応）

- ・ルールを守ることに厳格なため、教室内でルールを守らない子供がいると本気で苛立っており、それがストレスになっている。
- ・こだわりが強く、物事が思い通りにいかないと激しく怒る。負けず嫌いで、1番が好きなので、それが原因で友達に手が出たり、ルールを守らなかったりする。ルールや人にどう思われるか(叱られるかどうか)ということよりも、自分の好奇心が最優先なので、やってはいけないことを何度も繰り返し、よく叱られる。

（様々な障害による困難）

- ・書字に問題（筆圧、整形、速度、意欲）、作文・ポスター作成に問題（豊富な知識や拡散的アイデアをまとめられない）、グループワークに問題（知識量・観点、作業速度の違い、協調性不足）、体育の問題（低緊張、身体協調の悪さ）
- ・ディスレクシア傾向があります。本人の中では書字がかなり苦手ですが、KABCⅡその他の検査を行っても平均(100)程度～平均以上の数値がでるため学習障害の診断が下りず、公立小学校からは「他の子より出来ている」と言われ、配慮がなかなか得られなかったです。小学高学年になりやっと漢字が苦手なことが目に見えるようになってきたため多少の配慮が得られるようになりましたが、それまでにすっかり学校での学習が嫌いになってしまいました。
- ・手先の不器用さからの困難。算数では理解している問題であり興味がわかない上、細かいブロックを使っの授業は心身ともに負担が大きく疲れ果てております。
- ・中程度の知的障害とASDを合併しており、発語、言語理解においてかなり困難あり。
- ・小2頃より場面緘黙症が見られるようになる。音に過敏になり、音楽や体育の授業に参加できないことがある。通級指導教室に週に一度、参加するようになる。心療内科にて自閉スペクトラム症の診断を受ける。
- ・年長の時に、自閉症スペクトラムの診断を受けている。完璧主義で苦手なことへの抵抗感が強い（例えばダンスなど。）そういった場面においては強い拒否を示し動かなくなる。自分なりに完璧にできると思ったことしかやりたがらない。人に見せたくない。得意分野においては饒舌なのに、人前での発表など構えた状況になると突然貝のように口を閉ざすので、クラスでは浮いた存在ではあるらしい。

（感覚過敏）

- ・高音低音、さまざまな音（聞こえにくい音までも）が聞こえるようで、いきなり鳴る学校のチャイムやクラスメイトの大声ではなす声、音楽クラスで自由に練習するときの笛の音や音のずれに不快感や恐怖をいだきやすく、なかなか授業に集中できなくなるときがある。
- ・感覚過敏により、偏食がひどく給食がほとんど食べれない為、同級生に指摘等される事にうんざりしています。

（教員の対応）

- ・教師も、授業を重ねる度に無気力かつ反抗的になってくる子供に対し、怒りを感じ問題児扱いし、授業態度を叱責する。
- ・学校ではほめられることがない。できるということがいいことではなく 難しくないと一言でも言ってしまうと先生に怒られる。
- ・先生の間違いも気付きやすく、指摘しても先生にすぐにもわかってもらえず悔しい思いをしたり、先生の矛盾している指導に対して納得いかず学校へ行く意欲がとんどんなくなっている。
- ・当方が通っている地域では、ギフテッドというものに対する基礎知識が（略）ゼロの状態です。その為に学年が変わる（担任が変わる）たびに、一から子どもの特性を懇切丁寧に（誤解、齟齬が生じないように細心の注意を払いながら）説明しなければならず、授業以外に多大な時間を割く必要がある。

（その他）

- ・ 本人の困り感はゼロです（「困っていない」と主張します。真偽は不明）が、周囲は非常に困っているようです。
- ・ 学校では多動や癩癩など、さまざまな特性をほとんど隠しているらしく、保育園、小学校と、担任の先生に相談しても、問題行動特になし、とのこと。ただ、園でも学校でも、お迎え直後の多動や興奮状態が激しく、それまで相当頑張っていて、衝動を抑えていたのだろうと想像できる。現在、小児科にて検査中だが、医師からは、頭の良い子は驚くほど巧みに特性を抑えることがあると聞いている。
- ・ 学校でのトラブルを防止するために、息子の過集中、多動性、数学の学習進度、負けず嫌いといった特性については、毎年担任の先生には予め伝えるようにしています。
- ・ 大人に対しては『大人は経験豊富で知識がある』という（思い込みの）前提があるため、「自分の質問にきちんと向き合ってもらえない」、「一貫性のない指導に遭遇した」、「理由の説明もなく従わせる指導をされた」など、困惑させられたり失望させられると、過剰とも思える程傷付く。特に、教員に対しては『子どもに物事を教える職業』という認識のため、『誰もが納得する振る舞い』と『何でも答えられる知識』があると過剰な期待をしているので、落胆ぶりも激しい。

③効果的な才能への支援

(学校における指導やかかわり方の工夫)

- ・正しい答えだけでなく、「何故、そのように考えるのか」、考え方を発表させてくれた先生のクラスは非常に楽しかったと申しておりました。
- ・自己肯定感が低いので、自信をつけさせる声かけをして頂いたことが有効でした。
- ・暇になってしまう時間に、他の生徒を助けさせるなど役割を与えると、授業に前向きに参加できていた。
- ・担任の先生と一緒に授業をすることを提案してくださいました。1時間の授業展開や取り上げる内容などを先生と一緒に考え、1時間の内のほとんどの授業進行を息子に任せてくださいました。その経験から先生が授業を作ることの苦労を知ったり、成功した体験で自信が多少ついたようです。
- ・学校では、大学卒業後に社会経験をつんだか教師の枠にはまらない「より広い視野を持つ教員」からの理解やサポートを受けて、授業から一步進んだ発展的な課題を提示してもらえたこと。
- ・四年生からギフテットについて担任に話し理解が得られ教師との信頼関係を築く事ができ教師のフォローで誤解される事も少なくなり自信を取り戻し前向きになれた。理解あり導いてくれた学校教師の存在がこの子の人生感を変えてくれたと思う。幸運な事例だと思う。
- ・学校では学級に「係」制度があり、自分の好きなことを利用してクラスのために貢献することができる。自分の興味のある化学分野について、仲間と課外で活動したものを自由に発表させてくれる。創造力や協働力を強制的ではない形で発揮させてくれ、課外であるため、自由度も高く、肯定的に評価されることも多く、本人の自己評価にも役立っている。
- ・通級で出会った先生が気付いてくださり、学習や想像力がとても伸びて、楽しいから自分から行きたいと言った。
- ・特別支援学級にて、本人の文脈を大切にしながら、発達段階に応じて、自己理解・自己コントロールできるような支援を行う。

(読み書きなど学習上の困難への支援)

- ・書くことを嫌っていた文字は、形が整いやすかったカタカナからはじめることで、自信につながり、書くことへの意欲につながった。
- ・低学年から読み上げの支援があったり、配布プリントが電子ファイルで貰えるならば、ICT機器で読み上げ機能を使ったり、拡大して読んだりできるので電子ファイルでプリントを受け取れると良い。電子ファイル形式の物にテキスト入力してそのまま提出できると良い。
- ・大学のプログラムでICTの有用性を知ったことが事態を好転させる契機になりました。公立小中学校でノートテイクやテストなどにPC使用の配慮を受けられたことで学力を伸ばすことができました。
- ・書字障害を持つので、書くことはなるべく避けることが基本であり、パソコンは大好き。ただ、パソコンを開くと、自分の好きなことをしてしまうので、パソコンを使って学習すれば良いではないか、という、短絡的な手段は通用しない。
- ・口述は得意だが文字の筆記は不得意。本を読むのが苦手なので、音読をベースに学習を続けたら国語の苦手感が減った。

（学校内の環境）

- ・学校において、大人がつくる枠組みがしんどくさせているが、社会に出るために必要なスキルではあることも本人は理解している。そのしんどさを、本人の努力と周りの友人によってクリアしている姿は素晴らしいと思う。中学生になってからは、学校や、団体ではなく、友達から認められ、助け助けられてするつながりが最高のサポートであり、宝となっている。
- ・小学校高学年の時の地元の校長先生がいい方で、学校中の先生を大切にされていて、いい空気が学校に流れていました。生徒に何かあれば、担任一人が抱えるのではなく、みんなでその子や家族の為に何が出来るか共有してくださっていました。
- ・学校では担任ではなく、スクールカウンセラーと養護教諭に恵まれ、子供だけでなく、親も精神的に助けられた。
- ・図書館で本を借り、たくさんの本を読んだことも、子どもの助けになったと思います。図書館司書の方は、子どもに本を押し付けず、個人個人で読みたい本、読める本が違うのは当たり前と、ひとりひとりの特性を見てくださいました。

（学校外の学びの場の提供）

- ・不登校になり適応指導教室に通っていた頃は自分がその日にやる学習内容を自分で決められることがとても合っていたようで、転校した今もあの頃が自分にすごく合っていたと言います。
- ・同じような、もしくは異学年の特異な才能を持つ子供たちを集めて、同じ時間や空間で過ごす機会を作ってくださいる心理士さんの集まりに、我が子が通っています。「そこでは、自分の思ったこと・やっていることなどを言葉を（周りが理解しやすいように）変換しないで躊躇なく話せるので、とても楽し、楽しいんだ」と子供から聞いています。
- ・小学6年のとき探究学習の場に1年いかせた。勉強のためと言うよりディスカッション。好きな体勢で自由な解き方を認められ大学生と一緒に考えてくれた。この時は楽しかったらしい。
- ・博物館で学芸員の先生が研究内容を見て実験方法や研究者の考えなどを丁寧に説明してくれたこと。
- ・大学の研究所で先生たちがデータを見て一緒に議論したり今後の研究計画を考えてくれたりしたこと。また、それに加えて今後の継続した実験場所の使用許可を与えてくれたこと。
- ・個別指導塾。小学2年生時に、2年生の学習が習得できていると理解し5年生の勉強をさせてくれた。生徒の学習習得レベルを見極めて適切な学習を提供してくれることは、本人が自ら学びたいという主体性を引き出すということにおいてとても重要なことだと思います。飽きたタイミングにはパズル系の問題で遊ばせてくれたようで、脳みそのまた違う場所を使うことで切り替えもできるし、ひたすら脳みそを使っていたい子どもには、最適でした。
- ・年長から珠算教室に通い、計算の速さや桁の多さを追求できるようになり、昇段や大会も目指せた。小2で不登校になりかけた時算数の先生が難問のプリントをくれるようになって面白さを知った。算数の自由研究作品コンクールやジュニア数学オリンピックで学年を超えて挑戦する場を得られた。
- ・自由に学べる個別の算数教室に2年間通いました。解き方は何でも良い。式を使わなくてもよい。単純な計算問題は意欲が持続しないため、そのような形の授業をこちらからお願いしました。難易度の設定が肝で、本人が難しいけど頑張りたいと思えるレベルの問題作りを先生がオリジナルでしてくださいました。先生が退職されてその教室が無くなってしまい大変残念です。
- ・クラゲの研究者の先生や、昆虫博士、また研究施設など息子の興味を引き出してくださいる先生方と海に行ったり虫取りしたり議論を交わしたりしています。
- ・家庭で通信教育やインターネット上の映像授業を活用し、算数の先取りをしている。

- ・放課後ディサービスで、障害の重たい友達と一緒に体幹トレーニングなどを実施したところ、自尊心を取り戻すことができ、障害のあるお友達へ優しい対応ができたりと、ソーシャル面での成長があった。
- ・放課後デイサービスで歳上の子供と遊ぶようになってから落ち着いた。発達障害ゆえに揉め事もあるが、まだ話が通じやすいとのこと。
- ・児童発達教室では、少人数など集中しやすい環境で、成功体験をできるだけ積むというカリキュラムがあり、凸凹の凸の部分より強化し、凹の底上げにもつながったという経験がありました。
- ・民間のフリースクールで、自分の好きな勉強を自分のペースで取り組むことをサポートしてもらえ、本人の居場所の確保と知的欲求を満たして貰えた。
- ・まだ出会えていません。科学実験教室に通っていますが、当たり前ではありますがそこでも年齢に応じたものしか体験できず物足りなさがあります。療育にも通っていますが才能への支援はなく「周りに迷惑をかけない方法」を学んでいます。科学イベントなども年齢の壁があり参加できないものばかりです。

（その他）

- ・マルチタスクの方がバランスよく集中するので、「ながら」学習を注意しなかった。これは非常に効果的だと思う。
- ・メンターマッチングで自宅に来て頂いているメンターさんは子供の興味のある専門分野に長けた方で知的な好奇心を満たしている。
- ・図画作品を認めてくださった、コンクールの選考者さん。新聞や展示の絵を見て声をかけてくださった地域の方たち。

(4) 学校、教育委員会、国に期待すること

※以下の内容は、代表的なものを便宜的に分類して、原文のまま列記したもの。

(学習内容)

- ・学校での学習に退屈してしまうようですが、友人や先生との関係での悩みはあまりないようです。寧ろ同年代の子との遊びは大好きらしく体育の授業がある日は喜んで登校します。同年代との繋がりを保ちつつどこかで自分の興味のある分野(数学等)を心置きなく掘り下げられる機関に行き来できるようなシステムを望みます。
- ・子どもの問題行動が特異的な才能が由来となっている場合、子どもの理解度に合った学習の機会を提供してほしい。
- ・横並びの教育から、個々の能力を認め合える環境配慮を希望する。理解済みの学習範囲においては難易度を変えた問題を出したり、一步踏み込んだ問いかけをする等。一例として「習っていない漢字を使わないように。」など周りの能力に合わせるような指導や、自発的な学びを止めるような関わりがなくなるだけでも、学校に対する印象は変わると思われる。
- ・過度な宿題や課題などの一斉提出を求めるのでく、例えば、レベル別の課題の仕分けなど、オンラインリソースを利用した内容を求める。
- ・個人の学習スピードや関心分野に応じた授業を受けさせたい。教科別、習熟度別の授業を小学校から展開して欲しい。わかっているから、できているから、いいねと放置しないでほしい。
- ・通学する小学校では、算数の習熟度別学級が実施されており、その時間は充実したものに感じられるようである。小学校において習熟度別が行われているのにもかかわらず、中学・高校と特にそのようなことがない、というのは、親を不安にさせる要因である。
- ・飛び級制度、又は飛び級にならなくとも、得意な教科だけでも上の学年と一緒に授業を受けられるようになる事を期待します。
- ・通級指導教室でも指導を受けていますが、凸凹の凹の支援だけではなく凸の部分の支援をしてほしいです。親だけでは賄いきれませんが、凹の支援ばかりでどんどん学習への意欲が削がれています。できる教科は学年に拘らずある程度は進めて欲しいですし、少なくとも学習の意欲を否定しないで欲しいです。
- ・全ての単元において「何の為にする学習なのか」「何の時に役に立つ学習なのか」を系統立てて理屈で説明できる位、大人が理解していると子どもにモチベーションを持たせやすい。ので、教員がそこをきちんと理解して言語化できるといい。
- ・学校カリキュラムの科目や内容のそれぞれの必要性を再検討してほしい。「学んでおいた方がいい」ことはたくさんあるだろうが、それを始め始めると何もかもになっていく。「最低限学んでおくこと」は何か？子どもたちに学ばせている内容を棚卸しし、外していいものは外して、本当に重要なことのみを必須で学び、空いた時間でそれぞれ好きなことに取り組む。本人が興味関心あることならば、生き生きと主体的に学ぶことができ、そして一つの分野は幾つもの分野につながっていくので、追求すればするほど幅広い学びを得られる。

（学習環境）

- ・ 拡大教科書やデジタル教科書を高校も当たり前にしてもらいたい。保護者の金銭的な負担がすぎる。
- ・ 才能教育に限定せず、児童生徒一人ひとりの個性や多様性を尊重する教育を実現することが、結果的に特異な才能のある児童生徒の支援にもなると思います。クラスの人数を減らし、先生の数を増やし業務を減らして学校内に時間的、精神的なゆとりを生み出して欲しいです。時間的、精神的余裕があれば先生方はもっと子どもの個性に目を向けてくださるのではと思います。
- ・ 学校の図書室には物語の本が中心で数学・科学・物理の本はほとんど無いようです。学校も市の図書館から借りているようでしたがいつも物語の本を進められ、数学・物理・科学の本はあまりありませんでした。

（支援体制）

- ・ 一人一人に合わせた、個別指導計画の作成。
- ・ この領域に詳しい研究者（専門家）や臨床心理師等の心理的ケアのサポートも入れてほしい。
- ・ 常駐のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーがいなかったために適切な指導が受けれていないので臨床心理士や児童心理を学んだスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどを配置して欲しい。
- ・ 進路選択（入試等も含め）に不安があるので、才能が輝けるような学びの場や、特性に配慮しながら進路選択ができるような支援があるとよい。

（教員の理解啓発）

- ・ 学校の先生を育成する機関で、ギフテッドの子たちの特性を学ぶ時間を、少しでも良いので取って頂きたいです。学校の先生も、対応に困っていらっしゃるように感じます。
- ・ ギフテッド児が在籍するすべての学校の全教員に研修の機会を設けてほしい。ギフテッドと言っても様々なタイプがあり、臨機応変に対応していただく必要があると思います。これ以上自己肯定感が下がると、せっかくの能力を活かせないばかりか、普通に生きていけるのか心配になります。
- ・ 非同期発達、過興奮性の理解をして欲しい。才能がある反面、生きにくさを抱えている子供の存在を認めて欲しい。
- ・ 「特定分野に特異な才能のある児童生徒」は児童生徒によって、望ましいとされる関わり方を一括りにすることは難しいと感じる。ポータルサイトのようなものを構築し、事例および関わり方の共有などをしていくのがよいのではないだろうか。
- ・ 指導する者が忙しすぎて個を大切にしながら関わる時間がない。教師の多忙を解消し、一人ひとりのこどものよさを伸ばせる支援や教材研究できる時間をつくってほしい。

（学校外での学びの場）

- ・ 地域のプログラムなど外部との連携が大切だと思います。学校の先生方への負担を軽減するためにも、アウトソースできるところはぜひ外部委託で対応してほしいです。
- ・ 学校教育の中で生徒ひとりひとりのニーズに合わせてもらうのはとても難しいので、民間の教育施設と連携して、そこで受けた教育を学校での出席日数として認めてもらうなどの支援があればありがたいと思います。

- ・全国の学校から、同じ興味を持った子を集めて、部活動のように活動ができる場所があったら、お互いもっと成長できるのではないのでしょうか。学校とは別に、得意分野での居場所を作っていただければ、不登校になってしまったとしても、親も本人もあんなに悩まずに済むと思えるのです。ぜひ検討をお願いします。
- ・経済格差や地域格差を解消するための学びの場として、もっと図書館を活用して欲しいとも思います。
- ・学校の図書室で借りられる本が学年ごとに決められていて、一年生は借りられない本がありました。こどもの知的好奇心に蓋をするようなことは、あってはならないと思います。
- ・博物館、美術館、科学館そのほか研究施設など、ホームページで子供向けの教材ページを充実する取り組みが行えるよう法整備をしてほしい。
- ・科学工作教室やイベントなどは、本当に楽しみにしているのですが、申し込み人数が多く、抽選になってなかなか参加できないことも多いです。有料でもかまいませんので、似たようなタイプの子供が参加できる場を設けて頂けると助かります。
- ・芸術、科学分野の無償で参加できるワークショップなどが身近にあればと思います。現在は習い事としてやらせており、親の経済的負担が大きいです。
- ・好奇心、学習意欲が活かせるように教室にとらわれない、学び（工場・現場見学、各部門研究者とのふれあい、実験）などの機会に触れさせてあげたいです。
- ・フィジカルギフトはその能力を発揮する場には恵まれるし、称賛も受けやすいが、適切な指導を受けられなかったために児童の段階で体を酷使して故障したり、アスリートとして成長する前に芽を摘まれてしまうことが多い。特に小学生を育てるスポーツ指導者に対して働きかけをしてほしい。

（保護者サポート）

- ・発達支援センター等で子供の特性が明らかになったとしても、支援対象とならないことが多い。また、福祉はマイナス面をサポートする部分が大きく、特異な才能を伸ばすために保護者は何をすればいいのかわからず子供が十分に力を発揮できないという現状がある。このため、基礎的な方針で良いのでその子の特性が明らかになったら発達支援センターなどから支援（困り感ある部分のサポートと才能を発揮させるためのサポート）を具体的に教えてほしい。
- ・本人の興味や研究の方向性に合致した研究施設や指導者を、紹介してくれるような機関があると良い。保護者の獲得した情報や環境等が、子供の限界値になっている懸念がある。
- ・得意がある子のフォローとか、こういう道に進めばよいや、こういう検定を受けるとよいなどアドバイスをするコンシェルジュみたいなのがいると嬉しいです。
- ・ペアレントトレーニングを専門的に受けたいが、共働きなどで得られる支援に限られる。本人の特異性に周囲が早く気付ける仕組みが欲しい。

(その他)

- ・家庭での学習が許可されるような制度を作ってほしい。制度がなければ、困った生徒、困った家庭、として扱われ、すべて例外的な方法を模索し、学校にお願いしなければなりません。
- ・公立の学校に通えれば、金銭的な負担がないが、ギフテッドの子が満足できるような学校に通うには、親の金銭的負担が大きく、経済状況により適切な学びが提供できない。公立の学校に行くことだけでしか得られない教育の無償を、1つの形にとらわれず、多様な学びの場で受けられるようにして欲しい。
- ・未就学児に対する支援を検討してほしい。支援の対象年齢を5歳程度に設定した方が良い。幼児の段階で特異な才能を見出せても、現段階では何の支援も無く、手探りで親が情報を検索して対応している状態である。
- ・特異な才能を「知能や創造性、芸術、運動、特定の学問ごとの能力（教科ごとの学力等）等」と定義されていますが、実際には非認知能力の高さや視座の高さなど、科目で判断できないものも多くあります。どうか学問の向き不向きという狭い視点ではなく、ギフテッドとして生まれてしまった子供たちの多くが救われるような支援をお願いします。
- ・「ギフテッド」という言葉には様々な意味や想いが含まれているようです。学術的な概念設定ではなく、海外の輸入の概念ではなく、日本人・日本社会における「ギフテッド」をしっかりと検討することで、より多くの児童生徒の才能開発や伸長につながる教育施策に活かしていただければと存じます。
- ・2Eでなくても発達障害のような言動があるが、恐らく発達障害とは根本的な要因が違うと思われるので、その辺りの研究を進めて欲しい。
- ・せっかく国で配慮を促す制度などを作っても、学校単位まで浸透していないとよく感じる。この有識者会議での決定事項や方針などが、学校によっては先生に受け入れられない可能性もあると思う。そういうことがないよう、十分に周知徹底をお願いしたい。
- ・企業の人事部から変えないといけないと思います。人事部がその業界のスキルが無い人が採用するため、無難な有名校で選ぶ傾向があり、本来その人の能力や実力を見るなら、人事部こそその企業の最高のスキル保持者でないと見抜くことは出来ない。そんな、社会の構造・会社の構造を変えるような整備をする必要があると思います。
- ・発達クリニックにも通ったが、専門医や心理士の中でも、ギフテッドや、2eに詳しい方がまだ少なく、ADHDや自閉症スペクトラムなどと診断されることがよくあるため、効果的な支援につながらない。児童精神科医や小児科医、心理士の間でも、ギフテッドや、2eを理解し、積極的にみつける仕組みを作ってほしいです。